

## 一人ひとりの児童が認め合う学級集団づくりの工夫

～学校グループワーク・トレーニング、構成的グループエンカウターの実践を通して～

那覇市立泊小学校教諭 仲村 みどり

### I テーマ設定の理由

児童が生活する学級集団は、学びを展開する場であり、児童の豊かな心を育む場でもある。児童が生き生きと学習し、友達と楽しく活動し日々成長していく姿をみるのは頼もしくも感じる。しかし、いじめや不登校などにより、人格がゆがめられてしまうような現実も存在し、大きな教育問題、社会問題となっている。

児童の生活環境は、兄弟姉妹の減少や、習い事、部活動等で限られた時間や限られた人との交流で人対人の関わりが希薄化していく現状にあり、学校生活における友達との関わり合いを重視した場の設定は特に重要になると思う。自分の長所や短所をしっかりと受けとめ、様々な人を理解し関わっていく過程の中で、お互いの個性を尊重していける集団が形成される。その集団で自信を持ち活動できる人間関係、協力して行動できる環境こそ望ましい学級集団であると考えている。

本校の児童は、元気で明るい子が多い。中学年になると、遊びや学習において多くの友だちとの関わりを好むようになるが、その関わりにおいてのトラブルが多く発生する。児童の訴えを聞いたり行動を観察したりしていると、そのほとんどが些細な言動におけるコミュニケーション不足が原因である。どの児童も一学期の学級スタート当初は「楽しい学級・仲の良い学級を」と希望を持っている。その子ども達の願いを持続させ、友だちや仲間とうまく関わっていけるような支援のあり方の必要性を感じてきた。

これまで、児童の観察や日記、保護者からの情報の共有を通して実態把握に努め、子ども同士の交流や連帯を重視した学習形態の工夫を通し、個が生きる学級づくりを目指してきた。学級の中で自分の個性を発揮し活発に行動している子もいるが、自分を閉じこめて自己主張ができない子や、自分の感情をそのまま相手にぶつけてしまう子、集団の中で緊張や防衛から自己を発揮できない子がいる。こうした児童の実態を踏まえた時、お互いの認め合いが教科での活動の場に留まり、人との関わり方の成長を認め合う場の設定に不足があったのではないかと感じる。

そこで、一人ひとりの児童が自己の持てる力を発揮できる学級集団の人的環境づくりの方法を考えていきたい。自分を肯定的に捉えて、友だちを受容していけるのに有効な構成的グループエンカウター(SGE)、仲間と課題を達成することで協力し、お互いが高め合っていく学校グループワーク・トレーニング(GWT)について研究し実践することで、一人ひとりの児童が認め合い、集団の中で高め合っていける学級集団づくりができると考え、本テーマを設定した。

### II 研究目標

お互いの個性を認め、仲間と協力するための技能や実践力の育成のため、学校グループワーク・トレーニング(GWT)や構成的グループエンカウター(SGE)を行い、自他を見つめる「気づく」力の育成の工夫や実践力を促すようなワークシートの工夫について研究する。

### Ⅲ 研究仮説

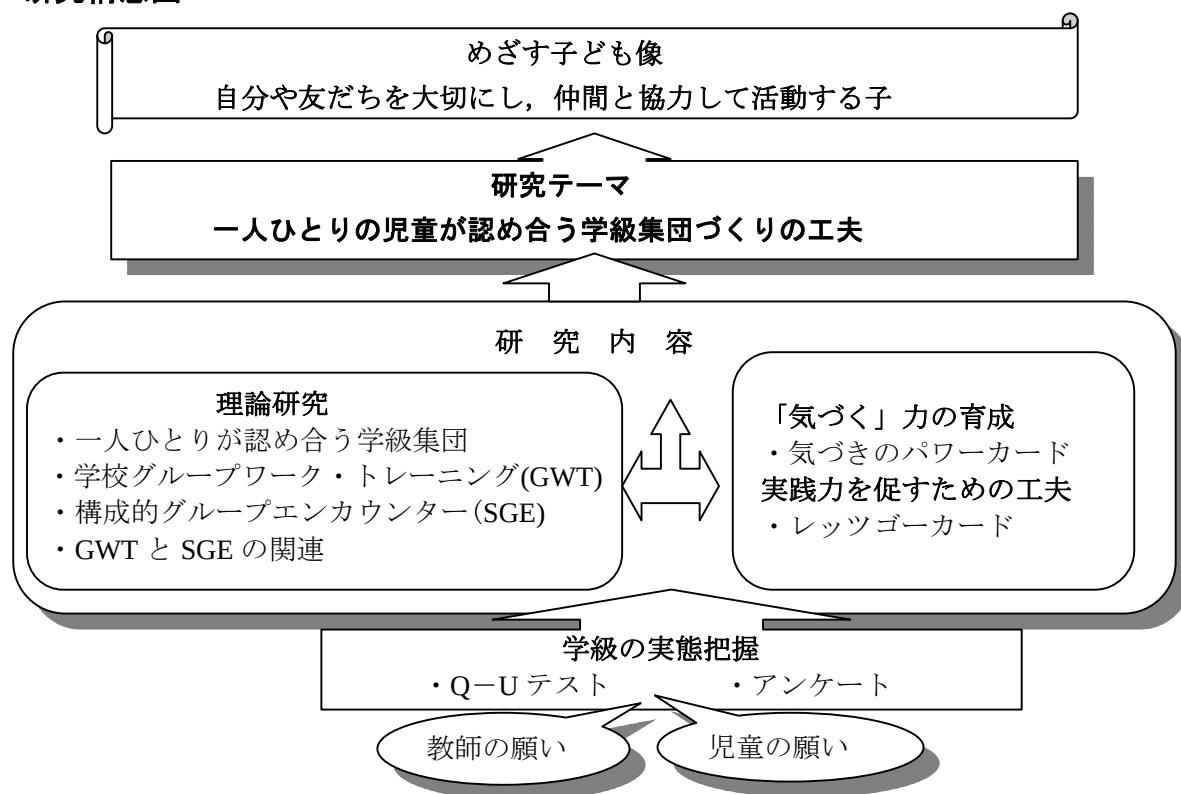
#### 1 基本仮説

学校グループワーク・トレーニング（GWT）、構成的グループエンカウンター（SGE）において、協力や自他理解を重視したエクササイズを行い、自己や他者への「気づき」を楽しく体感させ、仲間と協力し高め合うことができれば、自己肯定感を高めお互いが認め合っているとする学級集団づくりができるであろう。

#### 2 作業仮説

- (1) SGE や GWT の「ふりかえり」の過程で、「気づき」を発見させる工夫をすれば、自分の良さや友だちの良さを感じ取ることができ、自分に自信を持つことで自己肯定感、他者理解を促すことができるであろう。
- (2) GWT の指導の過程で、協力するための行動を明確にし、行動を促すふりかえりシートの工夫をすることで、協力し支え合うための実践意欲を促し、所属意識を高めることができるであろう。

### Ⅳ 研究構想図



### Ⅴ 研究内容と方法

#### 1 一人ひとりが認め合う学級集団とは

- (1) 小学校学習指導要領解説 総則編より

学級経営と生徒指導の充実（第3章第6節の3）に、「日頃から学級経営の充実を図り、教師と児童の信頼関係及び児童相互の好ましい人間関係を育てるとともに児童理解を深め、生徒指導の充実を図ること」とある。解説を以下にまとめる。

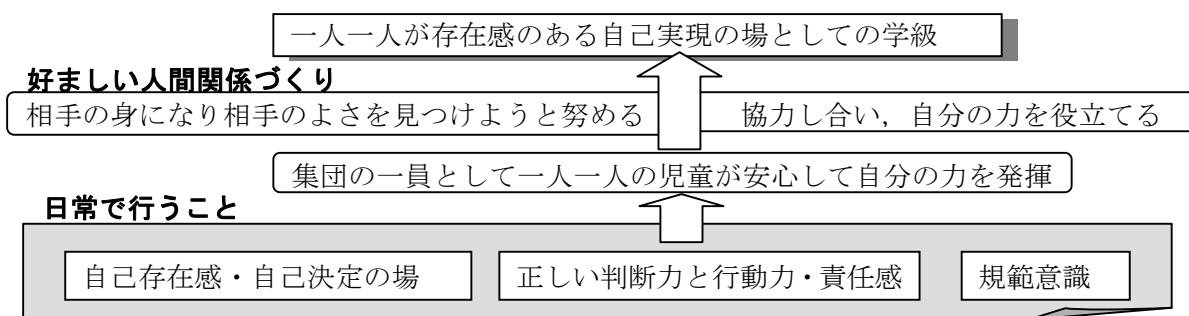
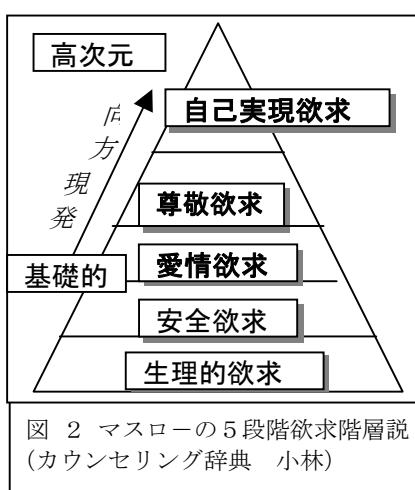


図1 学級経営と生徒指導の充実

一人ひとりが認め合う学級集団は、一人ひとりが自分を肯定的に認めていること、友だちのよさを認めていることが根底（自己存在感）にある。安心が保証された集団で、判断し、行動できることがいきいきと活動する姿（自己実現）につながると考える。

(2) マスロー (Maslow, A. H.) の5段階欲求の階層説



「欲求の段階」ひとつの欲求が満足されるとそれよりも高次の欲求を満たそうとするような優先順位がある。

- ・ **所属と愛の欲求（愛情欲求）** 集団の中の位置を占めたいという欲求。
- ・ **承認の欲求（尊敬欲求）** 自分自身による承認と他者からの承認に分けられる。この欲求が満たされている人は自信を持ち、有能感があり生産的であるが、それが不十分で阻まれているときは、劣等感や無力感が生じ、絶望的になったり、神経症的な行動が起こって来たりする。
- ・ **自己実現の欲求** 真の自己自身であろうとする欲求、または、じぶんがなりうるものになろうとする欲求。

（自己実現の教育 伊藤）

(3) 認め合う学級集団の成員に必要な思考・技能

学級の人間関係を築くため、児童の思考や技能を以下の4つをベースとし、育成する。

- ①自己受容：自分の良さ弱さを知り、前向きに改善していこうという考えをもつ。
- ②他者理解：周りにいる友だちの良いところに気づき、認める。また、自分もそうなりたいと同一化することで、自己成長につなげる。
- ③行動力：考えたことを言葉で表現したり、自分に与えられた役割に挑戦したりする。
- ④協力：みんなのためになることを考えて、自分の役割をやり通す。

## 2 学校グループワークトレーニング(GWT)で育てる力

『学校グループワーク・トレーニング』（坂野 2004, 2006 年）より以下にまとめる。

(1) 基本的な考え方

GWT (Group Work Training) とは、「仲よく協力するとはどういうことか」を体験的に学ぶプログラムである。理論と方法は、行動力学に基礎をおくラボラトリー・トレーニングの学習理論と成長心理学をベースにした体験学習である。自分の姿に気づき、自ら態度、行動を変容させていくことを目的としている。

- ①仲間づくりやグループづくり。
- ②グループプロセス（メンバーの感情・役割・意志決定のスタイル等）に気づき、集団の中で効果的に役割を果たす技能の養成。

③自己への気づきと態度の変容。組織の問題解決と活性化。

## (2) ねらい

GWTの目的は、楽しみながらパティシペイターシップ（集団組織に義務的に参加したり、お客様の参加するのではなく、自ら進んで積極的に参加し、責任を果たす協働者）を養成することである。パティシペイターシップの内容は、

### ①自分に気づく

ア・「いま、ここ」での自分の姿、行動、態度、表情、発言の内容と口調を正しく認知する。  
イ・自分の姿が、メンバーなど周囲の人たちに、どのような影響を与えているかに気づく。  
ウ・自分のものの見方考え方、価値観や枠組、欲求、こだわり、動機、意図、感情に気づく。  
エ・自分自身の価値を認め、自分自身を肯定的に認め、自分自身を好きになる。  
オ・周囲の人々の自分に対する期待と、周囲の人々から支えられていることに気づく。

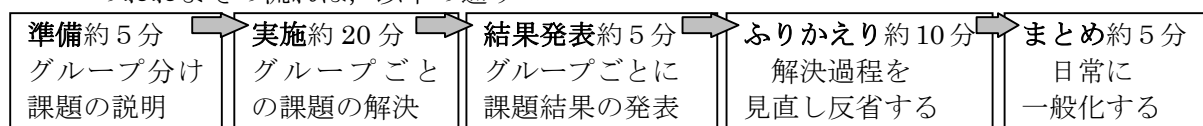
②他者、メンバーに気づく（メンバーの言動・感情等）

③グループの状況に気づく（グループプロセス）

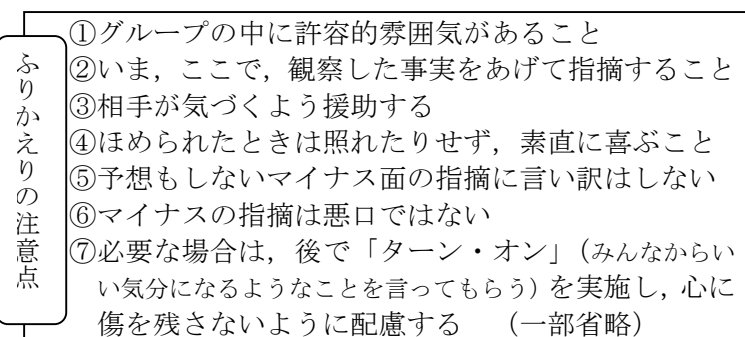
④グループの一員として、適切で効果的な行動をとる

## (3) 内容と方法

GWTの内容は、「情報を組み立てるGWT」「力をあわせるGET」「聴き方を学ぶGWT」「コンセンサス（合意）のよさを学ぶGWT」「友だちからみた自分を知るGWT」などがある。GWTのおおよその流れは、以下の通り



## (4) GWTのふりかえり



GWTの成果はどのようにふりかえりをさせるかにかかる。実習よりも多くの時間を要する。各グループに観察者をつけるか、ふりかえりシートを用いる。ふりかえりの注意点は左の通り。ふりかえりの時間がない場合、他の学級活動の中で、GWTの体験と今、目

の前で起こっていることを関連させながら繰り返し話をして、GWTで学ばせたいと考えた態度・行動の定着をはかる。

## 3 構成的グループエンカウンター(SGE)で自己肯定感・他者受容を高める

『構成的グループ・エンカウンターの原理と進め方』（國分康孝 2002）より以下にまとめる。

### (1) ふれあい（リレーション）と自己発見の促進

SGE（Structured Group Encounter）の原理はふれあい（リレーション）であり、ふれあいとはホンネとホンネの感情交流のことである。その交流で自分のホンネに気づき、自己の盲点に気づくという自己発見をする。無意識を意識化することでセルフコントロールしやすくなり、「自己を理解している程度に他者を理解」することができる。

### (2) SGEとロジャース理論及び行動療法

SGEがロジャース理論からうけた影響は「非審判的、許容的雰囲気人間成長の条件」

とすることであり、エクササイズルールに生かされる。(①守秘義務を遂行②非難、悲観的・評価的発言をしない③発言を強要しない④エクササイズを強要しない) エクササイズは、行動療法の「アクションを起こさせアクションを通して感情(不安・恐怖)が消える」という考えに影響を受けている。

### (3) 自己開示と癒し

エクササイズを介して自己開示し、あるがままの自分とありたい自分が一致する。自己開示を聴いてもらうことが「自己受容」の感情を育て自己肯定的になり、ほっとする。

また、他者の自己開示によって「人たるものはみなすべて同じものである」という「気づき」がもたらされ、癒される。ホンネとホンネの交流をするには、自分のホンネに気づき、気付いたホンネを表現することが必要である。ホンネとホンネの交流を促進させるためのエクササイズのねらいは、①自己理解 ②自己受容 ③自己表現・自己主張 ④感受性 ⑤信頼体験 ⑥役割遂行があり、さらにその先のねらいは行動の変容である。

## 4 GWT と SGE を関連づけた指導

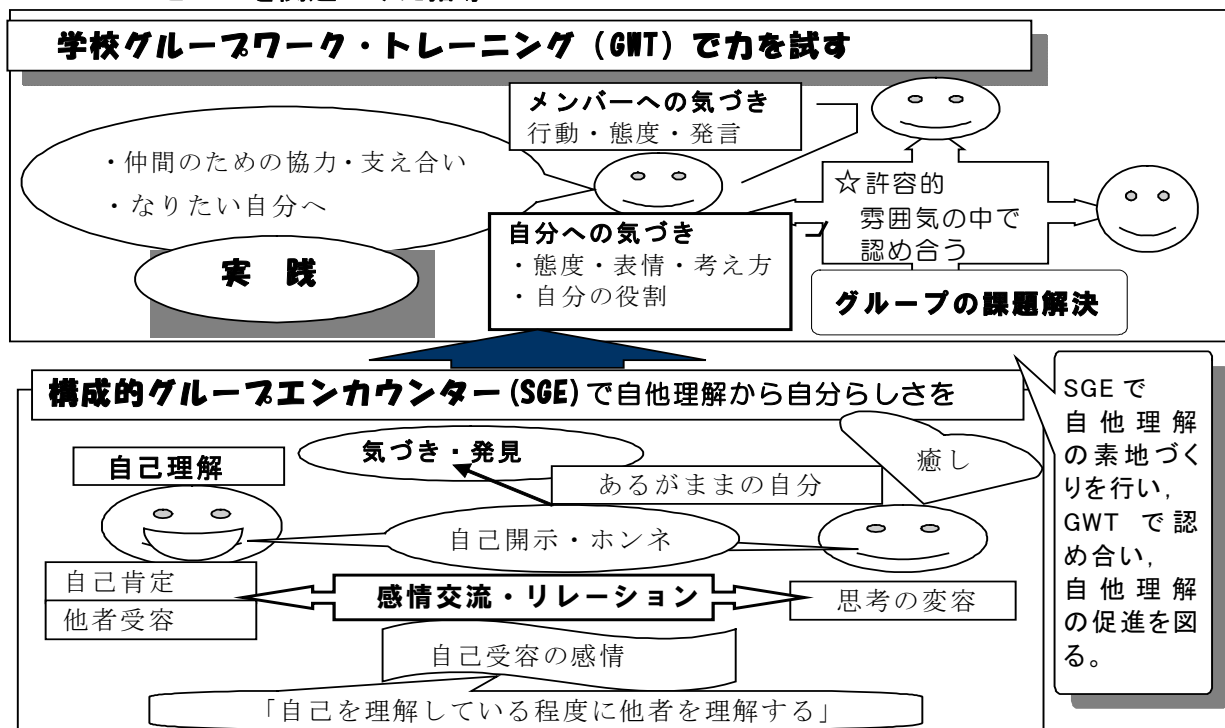


図 3 GWT と SGE の関連

認め合う学級をつくるために、お互いがサポートし合えるメンバーのとなれるよう団結させていきたい。そのための素地として自己開示、他者理解をねらった SGE を行う。自分のホンネ(言いたいけど言えないこと)を話し聞き合うこと等(感情交流)を通し自己受容の感情が生まれる。自分の短所を含めて受け入れる自己受容が、他者への気づきも促される。

以上の自他理解の素地がつくられたメンバーで、グループの力を試す GWT を行う。GWT ではグループの課題解決を通し、自分の言動や役割を客観的に捉え、新たな「気づき」が促進される。グループ内における自分の役割や、自分自身を含めたメンバーの価値、お互いの支え合いに「気づく」ことで、仲間のためにはどうあるべきかという実践へと意識が向かっていく。GWT, SGE で培われた自他理解が、グループや仲間としてあるべき姿に「気づき」、学級の一員として「協力し、仲間と支え合うための実践」へとつながる。

## 5 認め合う学級づくりの工夫

### (1) 学級の実態(Q-Uテスト「学級満足度尺度」)の分析と指導の方向性

斜めに伸びた分布となり、ルールとリレーションの確立が共に低い集団と判断される。「学級生活満足群」は全国平均より約8%低い。また、「侵害行為認知群」等にプロットされた児童の割合が高く、一見静かで落ち着き、のびのびしていた児童同士の結びつきが徐々に弱まった状態である。

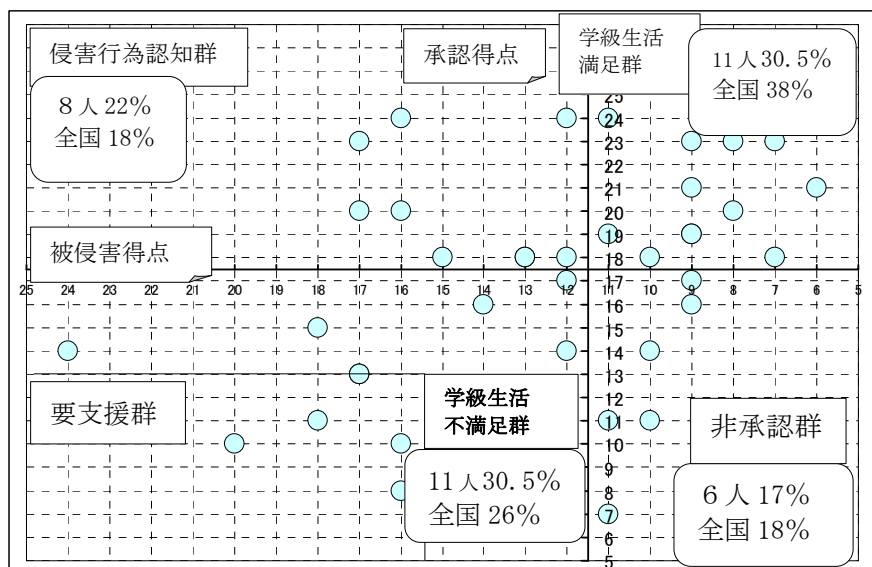


図4 学級満足度尺度 (いごちのいいクラスにするためのアンケート)

自由な発言が望ましいが、そのことが意見の対立にもなり、当事者だけでなく他の児童にも不安感や不信感が生じたと考えられる。

GWT, SGE を有効活用することでルールの共有、触れ合い、満足感・充実感を高め、個々の関係を全体に広げられるような指導の工夫をする。

学級生活満足群 : 不適応感やトラブルが少なく、意欲的に取り組める児童

学級生活不満足群 : いじめや悪ふざけを受けていたり、不適応になっている可能性の高い児童

侵害行為認知群 : 被害者意識の強い児童、自主的だが自己中心的な面からトラブルを起こしている可能性のある児童

非承認群 : 認められることが少なく、意欲の低い児童

### (2) 「気づく」力の育成

#### 【手だて1】 ふりかえりシートの工夫

①**レッツゴーカード** SGE, GWT の後に学級のための実践目標を決めさせ、一週間実施する。実施後、自分の状態を「**変身物差し**」の1～5のレベルで自己評価させる。実践と自己評価の継続は、行動療法の効果（実践がわかまりを取り払う）となり実践力の高まりとなることを期待する。

レッツゴーカード

名前

明るくんへ ゴー

1日 ( ) 人に ( ) をします。

火水木金月火

変身物差し

②**気づきのパワーカード** レッツゴーカードで自己評価の後、自他の変化（表情や態度、行動、周りの人の努力の程度）について「気づき」を書かせる。実践の効果に「気づく」ための思考を促し、言葉で表現させ、認知させる（「無意識の意識化」）。

気づきのパワーをつけよう

自分  
周りの人  
みんな

名前

## 【手だて2】 めあての統一、「力を合わせる方法（協力）」の具体化

|     |                                                                                                                                                     |                                                                                              |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| めあて | <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなの力が「合わせられる」ように努力する。（協力）</li> <li>・自分の役割を果たす。（聞く・考える・話す）</li> <li>・自分のことや周りの人のよさに気づく。（気づきのパワー）</li> </ul> | <b>力を合わせる方法（協力）</b><br>①みんなで決める      ④ ゆずり合う<br>②相手の意見を聞く    ⑤ 支え合う<br>③自分の意見を話す    ⑥ まとめる言葉 |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|

SGE, GWT は、それぞれが独立しているのではなく、「楽しい学級づくり」の学習であり、そのためにめあてがあることを理解させる。また、自分や周りの人の様子や気持ちに気づく力を働かせていくことが、大切であることを認識させる。自分や周りの人に目を向け、自分の役割を果たすことができるよう促していく。「力を合わせる方法（協力）」を具体化することで、できることから始めていこうとする向上心が高められると期待する。

(3) 「ふりかえり」で認め合い、実践活動へつなぐ

【手だて】 「GWT のふりかえりの時間」に準じ、実態に合わせてアレンジする。

「ふりかえり」では全面的に「認め合い」を行う。GWT のふりかえりの展開を取り入れて実施するが、GWT のふりかえりでは、「マイナスの指摘」もある。しかし、児童のリレーション（「ふれあい＝ホンネの感情交流」）が低いという学級の実態（Q-U テストの結果）から、よさを探し認めていく「ふりかえり」とし、「マイナス面の指摘」はしない。よさを見つけあうことは、新たな自他発見となり、「気づく」力を育成し、実践への連動となると考える。

## VI 授業実践

1 題材 あなたにプレゼント（「友だちから見た自分を知る」GWT）

A 学級活動 日常生活や学習への適応及び健康や安全に関すること

2 目標・「力を合わせること」について理解し、グループや学級の一員として協力して生活していこうとする実践的態度を養う。

・グループにおける自分の役割を意識し自分や周りの人のよさに気づくことができる。

3 学習計画

※SGE は朝の会、GWT は学級活動で行う

| 回（学級活動） | 月 日          | 内 容                    | 主なねらい |
|---------|--------------|------------------------|-------|
| 1（学活①）  | 1 1 / 2 7    | Q-U アンケート・「自分探しアンケート」  | 実態把握  |
| 2       | 1 1 / 2 7    | SGE : アウチであいさつ         | ふれ合い  |
| 3       | 1 2 / 4      | SGE : ドンマイける           | 自他理解  |
| 4（学活②）  | 1 2 / 7      | GWT : コピー人間            | 協力    |
| 5       | 1 2 / 1 1    | SGE : で〜きたできた（サイコロトーク） | 自他理解  |
| 6（学活③）  | 1 2 / 1 1    | GWT : 無人島生活            | 集団決定  |
| 7（学活④）  | 1 2 / 1 8 本時 | GWT : あなたにプレゼント        | 認め合い  |
| 8（学活⑤）  | 1 2 / 2 1    | Q-U アンケート・「自分探しアンケート」  | 実態把握  |

4 本時の活動

(1) 授業仮説

①GWT の展開の場面で「力を合わせる方法」を提示し、自己の行動を明確にすることで自分の役割を果たそうと努力し、気づく力を引き出すことができるであろう。

②ふりかえりの過程で、自分や周りの人に気づきを促すふりかえりシートの工夫をすることでお互いのよさを認め合い、日常生活で自分の行動の仕方を変えていこうとする実践的態度の育成へとつなぐことができるであろう。

## (2) 本時の展開

| 時                 | 活 動 内 容                                                                          | 教 師 の 意 図・支 援                                                                                                                                       | 評 価                                                                                                |
|-------------------|----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 始<br>め<br>2       | 1 めあてを確認する                                                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなの力が「合わせられる」ように努力する。(協力)</li> <li>・自分の役割を果たす。(聞く・考える・話す)</li> <li>・自分のことや周りの人のよさに気づく。(気づきのパワー)</li> </ul> |                                                                                                    |
| 展<br>開<br>28<br>⑧ | 2 説明を聞く<br>・メンバー一人ひとりのイメージに合うカードを選び、メッセージを添えてプレゼントする。<br>①やり方を聞く。<br>②「力を合わせる方法」 | <p>力を合わせる方法 (協力)</p> <p>①みんなで決める      ④ ゆずり合う<br/>②相手の意見を聞く    ⑤ 支え合う<br/>③自分の意見を話す    ⑥ まとめる言葉</p> <p>・今日の重点は聞く・話す・支え合う</p>                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・関わろうとしている。</li> <li>・よさを見つける。力を合わせ、支え合って活動している。</li> </ul> |
| ⑩                 | 3 ひとりで考える<br>・プレゼントカード配布<br>4 アドバイスし合い、考える                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「リーダーへの指示書」時間内で終了できるよう、アドバイスをし合いながら考えさせる。「支え合い」の効果を見届け支援する。</li> </ul>                                      |                                                                                                    |
| ⑩                 | 5 「プレゼント会」<br>・堂々と読む。拍手を送る。                                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「一番目の受賞者…」受賞者とプレゼンターを立たせ行う。照れずに受け入れさせる。</li> </ul>                                                          | はっきりと言える。                                                                                          |
| ま<br>と<br>め<br>15 | 6 振り返る<br>①気づいたことを書く。<br>②全体で認め合う。<br>7 実践目標を発表する                                | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「力を合わせる方法」を参考に自分や周りの人への気づきを促す。</li> <li>・クラスや周りの人、自分のためにできることを考え目標を立たせる。</li> </ul>                         | よさに気づいている。                                                                                         |

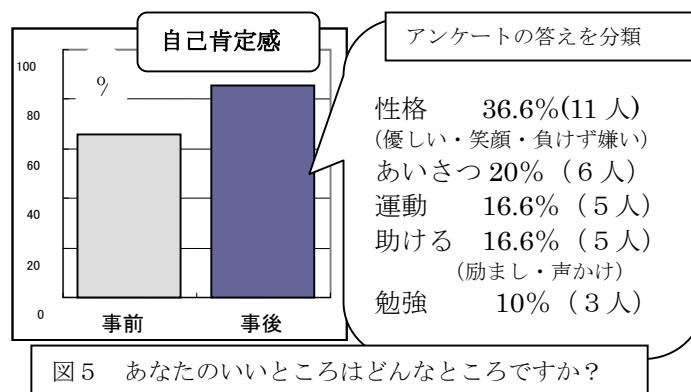
## VII 結果と考察

### 検証 1

SGE, GWT の「ふりかえり」の過程で、「気づき」を発見する工夫をすれば、自分の良さや友だちの良さを感じ取ることができ、自分に自信を持つことで自己肯定感、他者理解を促すことができるであろう。

### 検証方法 1 「自分探しアンケート」(自作)における自己肯定感の数値から考察する。

【結果】 「あなたのいいところはどんなところですか？」の質問に、自分のよさを具体的に書くことができたのは 65.7% (23 人) であったが、学習後は 85.7% (30 人) となった。85.7%(30 人)の児童の答えから自分のよさを分類してみると、優しい等の性格を上げた子が 36.6%(11 人)、続い



てあいさつができる 20% (6 人)、運動面、人を助けるなどであった。(アンケート集計 35 名)

【考察】 GWT では、自分の言動をふりかえるだけでなく、グループの一員としての役割はどうだったかということも要求される。ふりかえりシートは、「意見をよく聞いた人はだれですか?」「意見をまとめた人は?」と、お互いの役割についてふりかえさせ、グループで統一させる。自分やメンバーの言動から評価したことを、グループで話し合っ



えられる。みんなに認められることで、自信となり自己肯定感につながったといえる。

## 検証方法 2 気づきのパワーカードの No 1, 2, 4 から「気づく」力の変容をみる。

【結果】 抽出児：Q—U テストが要支援群・侵害行為認知群の児童のカードから（カードから抽出）  
要支援群に位置していた児童 A 児は「変わらない」としていたが No 4 では「勇気がついて気持ちが変わったり友だちが増えた」と表現している。C 児「気持ちがスッキリして他のクラスの人とも友だちが多くなる」と自分の気持ちの変容に「気づく」ことができた。また、「やる人は友だちがいっぱい」と周りの人へも意識を向けることができた。

表 1 気づきのパワーカード 「気づく」力の変容

|      | 児童 | 群  | No 1                 | No 2              | No 4                         |
|------|----|----|----------------------|-------------------|------------------------------|
| 自分   | A  | 要支 | 変わらない。               | 遊ぼうという言葉を使った。     | 勇気がついて気持ちが変わったり友だちが増えた。      |
|      | B  | 要支 | 前よりしようかなと思うことが多くなった。 | 前より声かけするようになった。   | あいさつする勇気が出た。                 |
|      | C  | 侵害 | 恥ずかしくなくなった。          | いつもおはようを言うようになった。 | 気持ちがスッキリして他のクラスの人とも友だちが多くなる。 |
| 周りの人 | D  | 要支 | いっぱいいろいろな人にあいさつしていた。 | 同じ                | (あいさつを) やる人は友だちがいっぱい。        |
|      | E  | 要支 | G はあいさつできるようになった。    | G はあいさつするようになった。  | 知らない生徒にすると友だちが増える。           |
|      | F  | 侵害 | H はあいさつしたら、かえしてくれた。  | H はいつも励ましてくれる。    | 前よりあいさつがいっぱいで、学級が楽しい。        |

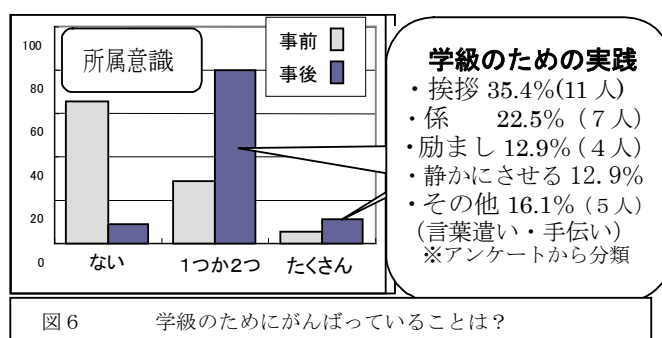
【考察】 始めの SGE では「アウチであいさつ」を行ったが、エクササイズはやりたくないという児童もいた。あいさつや周りの人への声かけの大切さは理解していても、進んで行えない子が多い。照れや相手との関係で気持ちが一致せず、不安な心理状態にあるようだ。SGE で軽い身体接触やサイコロトークで緊張している心や抵抗をやわらげ、SGE, GWT の「ふりかえり」で気づきのパワーが持てるよう題材を構成した。お互いの会話や感情の交流を通して自分を知ってもらい、安心感や喜びが得られたと捉える。また、「気づきのパワーカード」を活用することで、自分の実践の状況に客観的に正面から向き合い、自分の気持ちの変容に「気づく」ことが、周りの人への「気づき」にもつながった。

## 検証 2

GWT の指導の過程で、協力するための行動を明確にし、行動を促すふりかえりシートの工夫をすることで、協力し支え合うための実践意欲を促し、所属意識を高めることができるであろう。

## 検証方法 1 「自分探しアンケート」の数値から所属意識をみる。

【結果】 質問「学級のためにがんばっていることはどのくらいありますか？」に対し、学習前は「ない」と答えた子が 65.7% (23 人) いたが 8.5% (3 人) となった。また、「1 つか 2 つ」と答えた子は 28.5% (10 人) から 80% (28 人) に増加した。「学級のためにしてい



ることはどんなこと？」の質問で31人の児童の答えを分類してみると、「あいさつ」と答えた子35.4%（11人）、「係・当番」は22.5%（7人）、「励まし」12.9%（4人）となっている。（アンケート集計35名）

【考察】SGE, GWTは楽しい学級、協力していくための学級をつくるための学習であることを認識させるため、「めあて」や「力を合わせる方法（協力）」を統一して題材を構成してきた。これらの一連の学習が、グループ内の協力から学級へと意識を向かわせることとなり、寄り集まりの集団ではなく、学級の一員として楽しい学級づくりに関わっていきたいという、目的意識をもった学級へと変容したと捉える。

また、学級のための実践として児童の答えから、「あいさつ」「励ます言葉」等、周りの人を思いやった言葉かけだけでなく、「言葉遣いに気をつける」なども、学級のための行動として判断していることが分かった。児童の考えた協力や支え合うことについての行動目標を、自由に表出できる環境づくりができたと考える。学級のための行動を日常の実践に関連させたことが「自分も学級の一員として協力する仲間」という所属意識を高めることにつながった。

## 検証方法 2 気づきのパワーカード・レッツゴーカードから実践力の高まりをみる。

【結果1】 抽出児：非承認群・学級生活不満群の児童のカードの変容を段階化し考察する。

表2は、抽出児の気づきのパワーカードの抜粋である。「（あいさつ・声かけ）ができた」という段階から「使うようになった」「努力している」の第二の意欲の段階。さらに、「楽しくなってきた」など情意の段階へと変容した。気づきのパワーカード No4の「あいさつをしたり、サポーターワードを使い続けることで変わったことは？」の質問にはあいさつすると「楽しくなってくる」「うれしい」「心が温かくなる」という答えがあった。

表2 気づきのパワーカード 実践力の高まり

| 児 群   | No 1                | No 2                  | No 3                 | No 4                                              |
|-------|---------------------|-----------------------|----------------------|---------------------------------------------------|
| I 非承認 | けっこうあいさつができるようになった。 | 前よりよく言葉（遊ぶ）を使うようになった。 | 自分から進んでできた。          | 明るく、楽しくなってくる。                                     |
| J 非承認 | 前よりあいさつができるようになった。  | 前より声をかけられるようになった。     | 前よりあいさつができて楽しくなってきた。 | あいさつするとなんか笑顔になっていた。あいさつすると楽しくなってきた。うれしい気持ちになっていた。 |
| K 不満  | はずかしかったけど今はすぐできる。   | ありがとうと言えるよう努力している。    | 気持ちがよくなる。            | あいさつすることで周りの人と分かち合えてうれしくなる。<br>心が温かくなる。           |

【結果2】 レッツゴーカードの児童の自己評価における実践力の数値から考察する。

図7は、学級的全児童の自己評価の平均値である。カードNo1は平均3.2ポイントであるのに対し、No4の平均は4である。実践力の自己評価は向上した。

【考察】「協力すること」を具体化し、GWTを取り組んできた。「あいさつをする」という簡単なことでも、協力の一つのステップであり、すぐに行うことができる。「聞く」「話す」「支え合う」「まとめる」など、自分にできることから始められるという実感が、児童の中に刷り込まれたのではないかと考

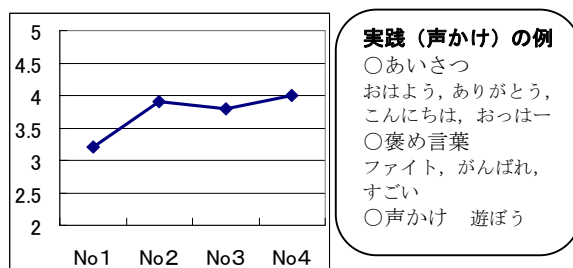


図7 レッツゴーカード『変身物差し（自己評価）・実践（声かけ）』

える。

気づきのパワーカードから、「おはよう」「ファイト」「遊ぼう」など自己を表出するすことの楽しさ、相手に返してもらうことで受け入れられたという、うれしさを感じとることができる。学級全体で取り組むことで、みんながやっている安心感、学級に協力しているという満足感が得られたと捉える。また、児童が声をかけ合う活動が日常化できるように「レッツゴーカード」を活用し、協力し支え合うことを継続していくことで喜びとなり、実践意欲の向上につながったと考察する。

### 検証方法 3 所属意識、学級のまとまりをみる。

【結果1】 気づきのパワーカード No4 より所属意識をみる。

「これから、自分のためみんなのために、どんなことができそうですか？」という質問についての答えを分類した。「あいさつや支え合う言葉を使う」と自分たちの活動のよさを認知した答えや「…をしてみんなと遊べることができそう」という生活に活かそうとするもの、「困っている人がいたら声をかける」という援助者としての答えや「…なクラスにしたい」という学級への願いもあった。

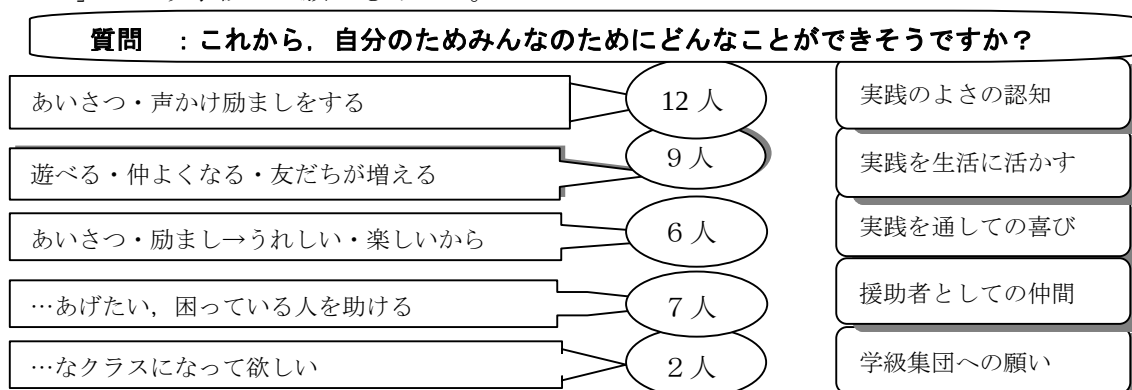


図8 学級のための今後の実践

【考察】「気づきのパワーカード」No4は、学習のまとめのふりかえりシートである。SGE, GWT の学習で共通体験をして、あいさつや声かけなどの実践目標を立て、お互いのサポーターになろうと学級全員で活動をしてきた。どの児童のカードからも実践のよさだけでなく、楽しさや仲間へのいたわりなども感じられた。「支え合う」ための声かけによるコミュニケーションを通し、学級の友だちの言動を受け入れる他者理解から、友だちに受容され認められたという自己受容の気持ちが得られたと思う。また、それらの受容されているという雰囲気は連帯感を生み、その効果が「気づきのパワーカード」で確認されたことで、学級への存在感を高めることになったと捉える。

以上のことから声かけによって得られた体験により、お互いが支え合うという実践活動の大切さを感じ取ることができ、学級集団へ愛着し仲間意識が強まった。

【結果2】 Q-Uテスト「学級満足尺度結果のまとめ」（いごちのよいクラスにするためのアンケート）より学級のまとまりをみる。

学級生活満足群に位置する児童は学習前の割合は30.5%（11人）であったのに対し、学習後は44.4%（16人）となり、13.9%（5人）増加した。侵害行為認知群は、-8.4%（3人）減り学級生活不満足群は2人減った。個人の位置を比較してみると、全体の矢印の方向は右上がりのベクトルとなり、要支援群のほとんどの児童が抜け出ることができた。

## 【考察】事前の Q—U テス

トの結果は、ルールの定着やリレーションの確立が共に必要とする集団であったが、中央の平均値へ集結し始め、学級集団としてのまとまりがみられるようになった。1名の児童は要支援群に位置し、数名の児童（波線）は依然、不安定な状態である。友人関係の問題の解消など、継続的な個別指導を行い支援していきたい。

SGE, GWT を組み

合わせることで、ふれあいや自他理解を促進させることとなり、学級での自己存在感を高めることができた。また、協力し、支え合う実践活動を継続させることで、個々の人間関係の結びつきを強めることができた。

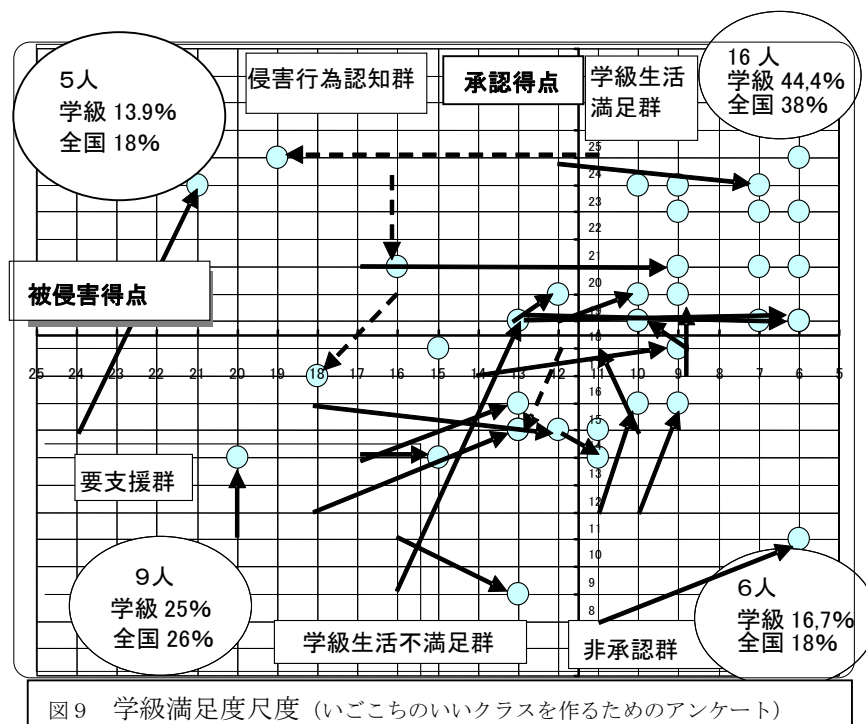


図9 学級満足度尺度 (いごちのいいクラスを作るためのアンケート)

## VIII 成果と課題

### 1 成果

- (1) SGE, GWT を関連させて実施することで、自己を開示し心の交流をする喜びや、グループの協力でお互いの良さに気づかせ、自己肯定感、自他理解を高めることができた。
- (2) GWT において「力を合わせることを」具体化し、ふりかえりシートの工夫をすることで仲間と協力し、支え合う実践的活動を日常的に継続させ、所属意識を高めることができた。

### 2 課題

- (1) 学級会活動の時間を確保するためにも、GWT を他教科や道徳の時間で活用する工夫をし学級経営に生かしたい。
- (2) 学級のメンバーに合った、効果的な SGE エクササイズの設定について研究が必要である。
- (3) 客観的な実態把握のため、アンケートの改善が必要である。

### 《 主な参考文献及び引用文献 》

「エンカウンターで学級づくり 1 2 月小学校中学年」  
「エンカウンターで学級が変わるショートエクササイズ集」  
「カウンセリング事典」  
「心理臨床大事典」  
「Q—U による学級経営スーパーバイズ・ガイド」  
「学校グループ・ワークトレーニング」  
「協力すれば何かが変わる《学校・グループワーク・トレーニング》」  
「構成的グループ・エンカウターの原理と進め方 リーダーのためのガイド」  
「自己実現の教育」  
「小学校学習指導要領解説 総則編」

八巻寛治 明治図書 2006  
國分康孝 図書文化 2000  
小林司 新曜社 1993  
氏原寛 培風館 1996  
河村茂雄 図書文化 2004  
坂野公信 遊戯社 2004  
坂野公信 遊戯社 2006  
國分康孝 誠信書房 2002  
伊藤 博 明治図書 1983  
文部省 東京書籍 2000

